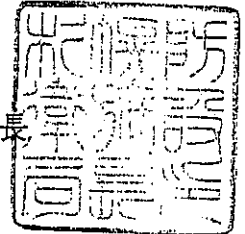


施札第2981号 (HFP)
平成17年12月19日

苫小牧市長 殿

札幌防衛施設局長



在日米軍再編協議に係る中間報告について (回答)

参照：平. 17. 11. 21. 付苫企画第139号
「同 件 名」

貴職におかれましては、日頃より、防衛施設行政に対しご理解、ご協力をいただき深く感謝申し上げます。

さて、参照文書により照会がありました本件について、現時点において回答できる事項につきまして、別紙のとおり回答しますので、よろしくお取り計らい願います。

なお、現在、具体的な訓練の内容等の細部について、日米間で協議がなされているところであり、今後、回答が可能となった事項につきましては速やかに回答したいと考えておりますので、引き続きよろしくお願いたします。

当局としては、今後とも、新たな情報等を入手次第、貴市に対し適宜適切に誠心誠意説明を行い、ご理解とご協力が得られるよう最大限努力してまいりたいと考えております。

以 上

添付書類：別紙

在日米軍再編に関する中間報告についての要確認事項に対する回答

【現時点で回答可能な事項】

1 現在の米軍航空施設である、嘉手納飛行場・三沢飛行場・岩国飛行場の三飛行場の米軍の状況（兵力等）。

当局が承知している3飛行場の米軍の状況は次のとおりです。

1 嘉手納飛行場

- (1) 嘉手納飛行場は、沖縄市、嘉手納町、北谷町の3市町にまたがって所在しており、施設面積は、約19.9平方キロメートルであります。

主な施設としては、飛行場（滑走路3,700m×90m、3,700m×60m）、整備工場、家族住宅等があります。

- (2) 本飛行場には、米空軍第18航空団を中心にF-15（戦闘機）を主とした航空機が配備されているほか、米海軍のP-3C（哨戒機）等も配備されています。

米軍のホームページによれば、航空機数は、平成17年11月現在で、F-15が54機、KC-135（給油機）が15機、E-3（早期警戒管制機）が2機、HH-60（汎用ヘリ）が10機となっています。

このほかにMC-130（搜索救難機）、RC-135（偵察機）、WC-135（気象観測機）、P-3Cが配備されていますが機数は公表されていません。

また、軍人軍属数は、平成14年4月現在で約7,300人と承知しています。

2 三沢飛行場

- (1) 三沢飛行場は、三沢市、東北町にまたがって所在しており、施設面積は、約16.0平方キロメートルであります。

主な施設としては、飛行場（滑走路3,048m×46m）、整備工場、家族住宅等があります。

なお、本飛行場の一部については、航空自衛隊及び民間航空会社が共同使用しています。

- (2) 本飛行場には、米空軍第35戦闘航空団を中心にF-16（戦闘機）を主とした航空機が配備されているほか米海軍のP-3C等も配備されていますが機数は公表されていません。

また、航空自衛隊においては、F-4（戦闘機）、F-2（戦闘機）、T-4（練習機）、E-2C（早期警戒機）、CH-47（輸送ヘリ）が合計約70機配備されています。

3 岩国飛行場

- (1) 岩国飛行場は、山口県岩国市、由宇町、広島県大竹市にまたがって所在しており、施設面積は、約5.7平方キロメートルであります。

主な施設としては、飛行場（滑走路2, 440m×60m）、整備工場、家族住宅等があります。

なお、本飛行場の一部については、海上自衛隊が共同使用しています。

- (2) 本飛行場には、第1海兵航空団を中心にFA-18（戦闘機）を主とした航空機が配備されています。

米軍のホームページによるとFA-18のほかにCH-53（輸送ヘリ）も配備されていますが、航空機の機数は公表されていません。

また、海上自衛隊においては、US-1A（救難機）、U-36A（多用機）、LC-90（連絡機）、EP-3（多用機）、OP-3C（多用機）、MH-53E（掃海・輸送ヘリ）、UP-3D（多用機）が合計約30機配備されています。

2 嘉手納飛行場・三沢飛行場・岩国飛行場の三飛行場における、現在の訓練の状況（訓練規模等）。

米軍の航空機は、一般的に、当該飛行場において離着陸訓練等を行うほか、特定の訓練空域や射爆撃場を使用し、空対空（戦闘機対戦闘機）あるいは空対地（戦闘機による地上攻撃）などの戦闘訓練を行っているものと承知しています。

ちなみに、防衛施設庁が嘉手納飛行場、三沢飛行場、岩国飛行場のそれぞれの滑走路両端に設置している自動騒音測定装置により測定した結果によると、平成16年度における1日当たりの平均騒音発生回数は、嘉手納飛行場は197回（年間約72,000回）、三沢飛行場は186回（年間約68,000回：自衛隊機、民航機を含む。）、岩国飛行場は137回（年間約50,000回：自衛隊機を含む。）となっております。

3 移転についてどこの機関で、どのような内容を検討しているのか。

日本側においては、防衛庁防衛局、防衛施設庁施設部及び外務省北米局が中心となって検討をしており、訓練移転に関することを含め、具体的な実施日程を含めた計画を来年3月までに作成することとしています。

8 影響を受ける関係地域住民への説明について。

影響を受ける関係地域住民への説明は、何時、誰が行うのか。

訓練の移転先となる飛行場においては、訓練に伴い騒音が発生することになりますが、当局としては、具体的な訓練計画や規模などを踏まえた上で、予想される騒音の程度を貴市に示すなどして、御理解が得られるよう説明していきたいと考えています。

【現時点で回答が困難な事項】

4 訓練の移転先について。

次の三飛行場から

- ・嘉手納飛行場（沖縄県） 沖縄市、読谷村、嘉手納町、北谷町
- ・三沢飛行場（青森県） 三沢市、東北町
- ・岩国飛行場（山口県） 岩国市

次の五飛行場への訓練の分散と考えてよいのか。

- ・千歳飛行場（北海道） 千歳市、苫小牧市
- ・百里飛行場（茨城県） 小川町、鉾田町、玉造町
- ・小松飛行場（石川県） 小松市、加賀市
- ・築城（ついき）飛行場（福岡県）
行橋市、豊津町、椎田町、築城町
- ・新田原（にゅうたばる）飛行場（宮崎県）
西都市、新富町

5 移転規模について。

- ・ 現在、三飛行場で行っている訓練の全てを、これらの飛行場からなくするのか。
- ・ 三飛行場にも、ある程度の訓練機能を残すのか。
- ・ 五飛行場全てに、訓練の分散を考えているのか。
- ・ どのような規模で、移転を考えているのか。
(移転兵力数、常駐するのか、戦闘機数、訓練回数等)

6 訓練が移転された場合、これは恒久的なものとなるのか。

7 民間航空機への影響はどのように想定しているのか。

9 今後のスケジュールを詳細に示して欲しい。

- ・ 「再編に関する勧告」の中で、「閣僚は、地元との調整を完了することを確約するとともに、事務当局に対して、これらの個別的かつ相互に関連する具体案を最終的に取りまとめ、具体的な実施日程を含めた計画を2006年3月までに作成するよう指示した。」とあり、また「これらの具体案は、統一的なパッケージの要素となるものであり、パッケージ全体について合意され次第、実施が開始されるものである。」との表現があるが、具体的な内容は。
 - ・ 計画が作成されるまでに、地元（影響を受ける関係地域住民を含む）の合意を得るのか。
 - ・ 計画が作成された後、地元（影響を受ける関係地域住民を含む）の合意を得るのか。

御指摘の5飛行場を含む本土の航空自衛隊基地などが訓練の移転先の候補地となり得ると考えていますが、具体的な訓練の内容等の細部については、日米間で調整しているところです。

来年3月の計画作成に向けて日米協議を加速化し、貴市に対して適宜適切に誠心誠意説明を行い、御理解と御協力が得られるよう最大限努力して参りたいと考えています。

いずれにせよ、嘉手納飛行場、三沢飛行場及び岩国飛行場で行っている訓練のすべてを移転することは考えていません。